

みんなの「個性」

小五

みなさんは、人の「個性」について、考えたことはありますか。わたしには、個性について考えるきっかけになつた出来事がありました。それは、友達が、女の子なのに自分のことを「ぼく」と言つていることを、他の子にバカにされたことです。

わたしの友達は小学四年生で、家が近所で登下校も同じでした。その子は女の子で、一人称が「ぼく」でした。わたしはどうして女の子は「ぼく」や「おれ」と言つてはいけないのか考え、悲しくなりました。なぜなら、わたしも男の子のような

物が昔から好きで、それをクラスの男の子に笑われたことがあつたからです。わたしは、自分のことは気にしないけれど、友達が何か言われたら、すごく気にするからです。他にも、わたしは詩を書くのが好きで、よく詩を書いていました。そのときにも、

「気持ち悪い。」「変。」

と笑われました。

このような出来事がわたしにはたくさんあり、それから人の個性について考えるようになりました。例えば、「どうして一度失敗しただけで人は笑うのだろうか。」と考えることもありました。個性は、自分しかもつていない特別なものだとわたしは思

います。その個性が一つ残らずなく
なつてしまつたら、みんな全く同じ
でつまらないと思います。でも、一

人一人個性があるからその人のよさ
が出るのです。みなさんは、金子み
すゞという詩人を知っていますか。
この人の詩に、『私と小鳥と鈴と』と
いう詩があり、その中に、「みんなち
がつて、みんないい。」という言葉が
出てきます。この言葉を聞いて、ど
う思いますか。わたしはこの言葉は、
個性を大切にしている言葉だと思つ
ています。

わたしはこのようなことから、他
の人にも人の個性を大切にしてほし
いと思つています。そのためには、
一人一人が自分も、友達や親も大
にしなくてはならないのです。わた

しはこの作文を書き、もつと個性を
大切にしようと思いました。